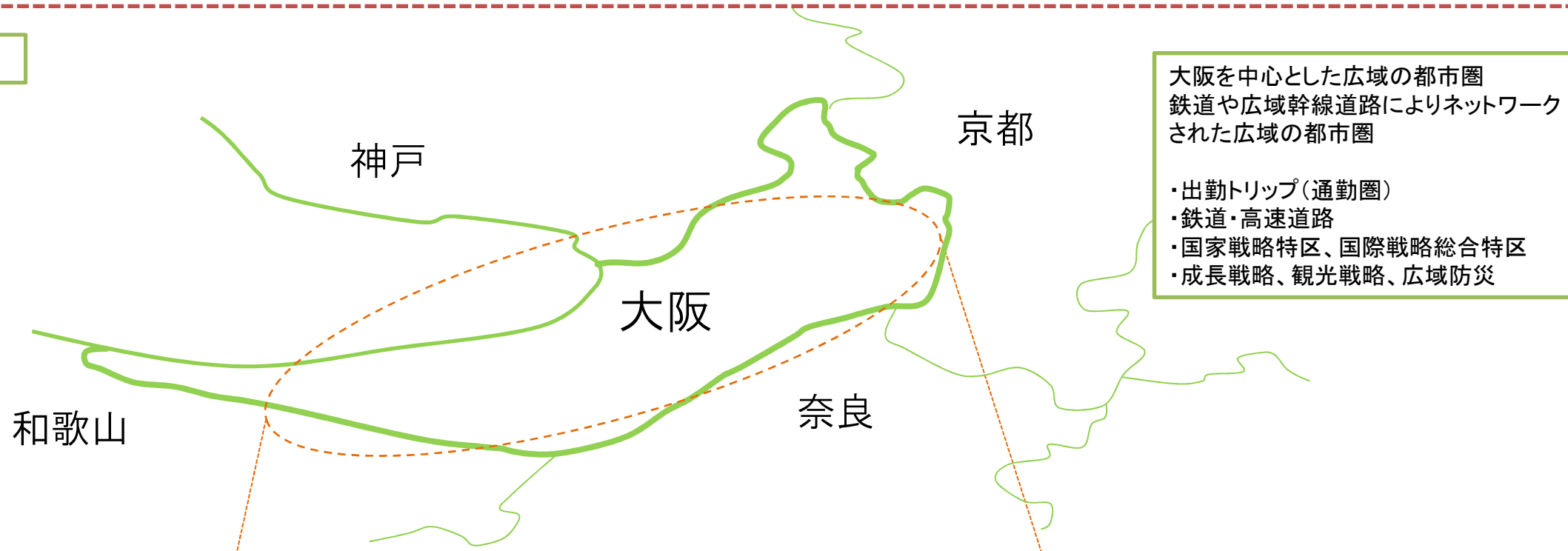


大阪の都市構造イメージ

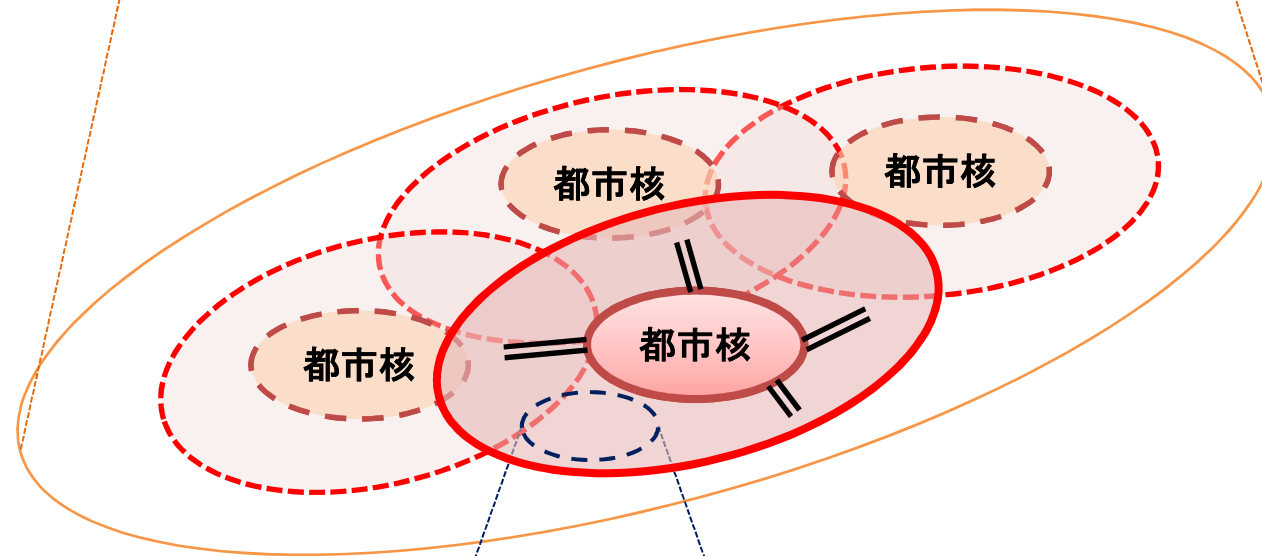
パーソントリップから見た人の移動や都市施設の立地状況、土地利用の状況等から、大阪の都市は次の3層性を有していると考えられる。
 府域を超える大阪都市圏内で、都心部を中心として放射状に広がる鉄道沿線に市街地が連担し、主要な駅周辺には都市核等が形成され、高密度に発達した鉄道・道路等の広域的なネットワークにより有機的に結びついている。
 また、大阪府全域が国家戦略特区に指定されるなど、広域的な視点から都市を計画することが重要となっており、大きな意味で、大阪府全体を一体の都市として捉えていく必要がある。

大阪都市圏



高度都市機能供給圏

地域の特性に応じた都市核を中心として高度な都市機能と雇用を創出する圏域

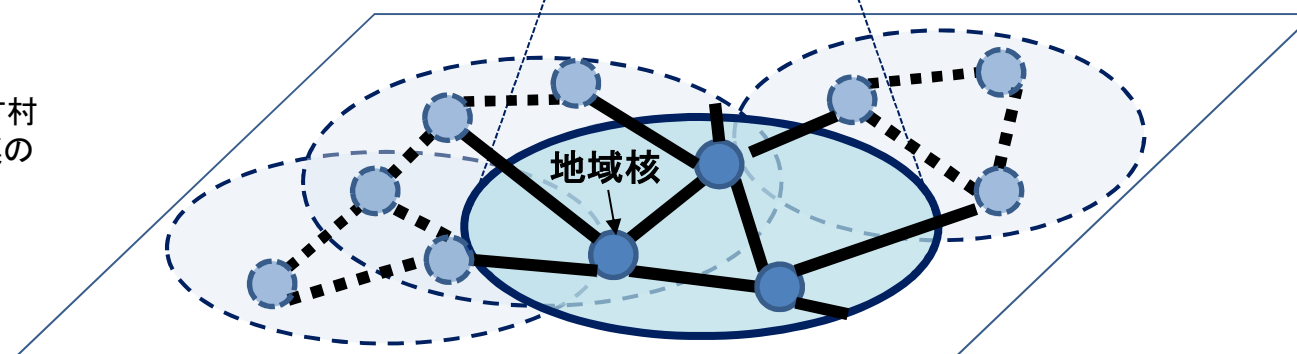


都心に過度に依存することなく、概ね1時間圏で高度な都市サービスを提供する都市核の形成を誘導し、多様な地域特性を持った各圏域が相互に連携。

- ・レクリエーション等の休日自由トリップ
- ・特定機能病院、大規模集客施設等
- ・都市再生緊急整備地域の指定
- ・地域防災 など

自立生活圏

中核市1市もしくは複数の市町村で構成される人口30万人規模の圏域



一定の圏域を設定するものではなく、市街化区域の全域で、公共交通により概ね30分圏で商業・医療・福祉・文化・教育等の中核市レベルの都市機能を確保。

- ・買い物等の平日自由トリップ
- ・病院、福祉施設、スーパー等

都市計画区域

都市計画

- ・都市計画区域MP
- ・区域区分
- ・用途地域
- ・高度地区
- ・景観地区
- ・防火・準防火地域 等
- ・地区計画